

## 第 52 回日本核医学会学術総会 印象記

内田 佳孝  
Uchida Yoshitaka

第 52 回日本核医学会学術総会が玉木長良学会長（北海道大学 教授）の下，2012 年 10 月 11～13 日まで札幌市にあるロイトン札幌とニトリ文化ホールで開催された。今回もまた日本核医学技術学会学術大会と合同開催の形で行われた。会場は 2 か所に分かれていたが，メインの第 1 会場以外は機器展示を含めてすべてロイトン札幌に集約されていて，コンパクトにまとまった参加しやすい学会であった。会場近くにはホテルも多数あり，JR 札幌駅や繁華街のすすきのに近いこともあり，参加者の多い盛やかな学会と感じた。今後しばらくは北海道での開催はなさそうなので，個人的にも開催前から非常に楽しみにしていたが，あいにく天気予報では 3 日間とも雨予想であった。初日に千歳空港に着いた時は豪雨でがっかりしたが，夕方には雨が上がり，その後は何とか曇りの天気を保ってくれたので，途中で羊が丘展望台へ行くことができた（写真）。夕食もイクラ丼とラーメンを食べることができて，公私ともども札幌ライフを満喫できて良かった。

### 会長講演，招待講演 など

本学会のメインテーマは「核医学の新たな挑戦—個別化医療の推進をめざして—」で，筆者としては今の核医学がおかれた状況をよく表しているなあと思った。また，この副題に合わせた大会長の講演やシンポジウムもあり，今後を見据えた将来志向の強い学会と感じた。招待講演の多くは分子イメージングに関するもので，



写真 羊が丘展望台のクラーク像

シンポジウムは腫瘍，心臓，脳のほかに治療，小児と非常にバランスが良い内容であった。内用療法のセッションでは前回と同じく  $\alpha$  線核種に関する講演があった。臨床的に期待がもたれるが，実際に実施するとなると排水や汚染した場合の管理などの問題はより一層煩雑になるのではという点は気になる。教育講演は 3～4 年前から核医学用の教育講演のほかに一般画像診断の教育講演が加わり，前回から一般画像診断の教育講演の方が多くなり，今回も同様であった。内容は普段 CT や MRI の読影に携わっていない人にも分かりやすく解説した基本的な講演ばかりで助かるが，PET/CT の読影の際に必要な CT の正常解剖の講演も聞ければと思った。ほかにもノーベル化学賞を受賞した鈴木章氏の特別講演もあった。

## 一般演題

今回の学会でも、例年通り多数の演題が発表された。一時期は腫瘍 PET・脳・心臓に演題が集中していた時期もあったが、今回は一般核医学の様々な検査に関する演題が多数発表されていたことが印象的だった。特に BONENAVI のリリースによって骨シンチの発表が非常に多数あった。腫瘍 PET は FDG を中心に相変わらず多数の発表があったが、さすがに頻度の多い腫瘍はかなり出つくした感があり、頻度の低い腫瘍の症例報告や良性疾患の発表が多く見られた。脳はアミロイド PET の発表が多数あったが、有用性の検討だけでなく既に新しい解析方法の検討が幾つも発表されていたことに驚かされた。このような方法論を進展させることは日本人が得意とする分野なので、今後が期待される。近い将来ドーパミントランスポーター (DAT) イメージング製剤の保険適用が噂されているので、次大会にはその DAT スキャンの発表が一気に増えることが予想される。今回は筆者の先輩でもあるワシントン大学の蓑島聡先生による DAT スキャンの招待講演があったが、DAT スキャンの読影方法に的を絞った非常にタイムリーな講演であった。心臓では新たに保険適用された心サルコイドーシス関連の発表で、討論が活発に行われていた。

## 機器展示

機器展示会場は日本医学放射線学会総会と比べると規模は小さいが、その分気後れすることはないので、気楽に見学できる。今年一番の話題はやはり PET/MRI 装置であろう。現時点ではシーメンス社の PET/MRI 装置のみが薬事承認されており、同社のみ模型が展示されていた (実機がなかったのは残念だった)。PET/MRI 融合画像が PET/CT のように簡便かつ自動的に作れるこの装置は、臨床的にも非常に有効な手段になることが予想される。意外だったのはシーメンス社の MRI が 3T の最高級品であったことである。当然、機器の値段も 3T の

MRI の価格に引っぱられることになり、かなりの高額になるであろう。しかも、既存の施設に入れるには施設の大幅な改修工事が必要になり、許認可の問題もあるため、むしろ新規に建物を建てる方が簡単かもしれない。また、MRI のスペック的に吸収補正+融合用の MRI を撮影するだけではコスト的に贅沢過ぎるが、PET の撮影に加えて通常の MRI の撮影もフルに行えば検査時間が大幅に伸びるので、検査件数的にも問題が生じる。しばらくは大学病院クラスの贅沢な資金がある施設でないと導入はなかなか難しいかもしれない。また、校正用線源は非金属のものを使っているとのことだが、貯蔵箱は非金属というわけにいかないで検査室内に置くのは難しいと思われる。ほかにも患者が嘔吐や失禁をした時の汚染検査をどうするのか、そもそもポケット線量計を着けて検査室内に入れないのは問題ないのか、などいろいろ興味は尽きなかったが、買う可能性のある客とみなされなかったためか、MR の方にほとんど相手にされず、これらの疑問点を聞けなかったのは残念だった。ほかには、GE 社からは検査時間の延長を伴わないで呼吸同期の PET 撮影を可能にする新システムが紹介されていて目を引いた。また SPECT/CT 装置もかなり身近になっていることが感じられ、これが PET 装置がない一般施設に普及すれば、Ga シンチや骨シンチの検査件数も少しは回復するかもしれないと思った。

## 今回は福岡市で

次回 2013 年の学術総会は福岡大学の桑原康雄先生を会長に、福岡市で開催される予定である。時期的にプロ野球の日本シリーズの時期と重なっているため、2013 年はホークスに是非頑張ってもらい、学会と野球観戦を楽しめればと思う。でも、そうなるとホテル代が高騰するかも。

(山王病院 PET 画像診断センター)